

1 社会資本の概要

アザメの瀬は、九州地方整備局武雄河川事務所において平成15年度～平成19年度にかけて実施されたアザメの瀬自然再生事業により、一時的な遊水地となる氾濫原（湿地）をつくることでたくさんの生き物が棲む自然豊かな場所として再生され、湿地

に生息する動植物を観察できる親水性の高い施設となっています。また、この事業では計画の段階から徹底した住民参加による計画立案・実施を行ったことで地域に愛される場所として様々な環境学習などに活用され、維持管理されています。



アザメの瀬全体写真



環境学習の様子

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

一級河川松浦川において、平成13年度に治水対策が必要とされていた当地区について、地域住民と河川管理者で検討した結果、堤防方式でなく、遊水区域を設け洪水を取り込む氾濫原とすることに決まりました。遊水地の平常時の活用として、駐車場・運動場などの意見もありましたが、「昔の松浦川を取り戻したい!」という思いが強まり、アザメの瀬自然再生事業を行うこととなりました。その自然環境再生への一助となるべく平成14年に「アザメの会」が発足しました。

アザメの瀬では、アザメの会が中心となり、河川管理者や大学と連携して、小中学生を対象とした環境学習や伝統行事の継承などの活動を行っています。



夏休み自然環境教室



夏休み自然環境教室での甲虫の説明風景

また、大学の研究フィールドでもあり、アザメの会ではその研究の一部を担っている関係で、大学からのサポートを受けています。このため、小中学生を対象とした水生生物調査や夏休み自然環境教室は、大学の人材や専門知識を活かした有意義で魅力あるものとなっています。また、大学の関係者のPRもあり、県外からの見学者や自然環境教室への参加者も多く、アザメの瀬について多くの方に知っています。他にも、今年から始めた中学生による花ハスの田植えや宿泊を伴う夏休み自然環境教室など新たな取り組みにも挑戦しています。

3 地域への成果や波及効果等

アザメの瀬は、モニタリング調査の結果、多様な種が生息・生育する豊かな生態系の場としての機能を発揮しています。そのような豊かになった生態系にふれあえる場として、環境学習等では幅広く多数の方に利用されています。(平成23年度463名、平成24年度605名、平成25年度524名)

平成18年には、アザメの瀬に棚田が整備され、総合学習の一環として米づくり体験を主に地元小学生を対象に継続して実施しています。このことで地域住民と子供達のつながりも深くなり、ふれあう環境が増えています。



棚田の全景



地元小学生による田植え

喜びの声



●受賞者

特定非営利活動法人 アザメの会
理事長 大草 安幸

●コメント

この度は、川と人との絆を深めるために、アザメの瀬の生き物とふれあいながら松浦川流域の自然を次世代へ継承していく活動を評価していただき、非常に嬉しく光栄に存じます。今回いただいた賞を励みにして、今後もいっそうの努力を重ねていきたいと考えております。また、活動に協力いただきました各関係機関の方々、本当にありがとうございました。

●活動内容

環境教室、体験学習 など

●活動の経緯

平成14年 発足
平成17年 NPO法人に発展

所在地

佐賀県唐津市相知町杉野地先

活動主体及び連絡先

特定非営利活動法人 アザメの会
(0955-62-5183)

対象となる社会資本

一級河川松浦川（アザメの瀬）
※管理者：国土交通省九州地方整備局
武雄河川事務所



手づくり郷土賞について

講評

大賞部門

一般部門

資料集

手づくり郷土賞について

講評

大賞部門

一般部門

資料集